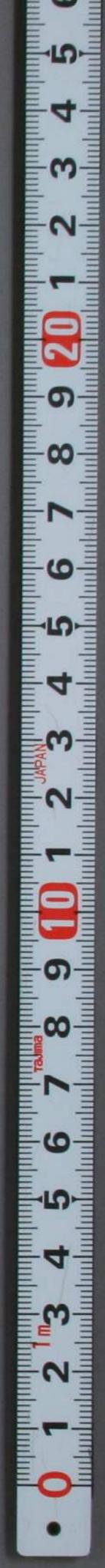


里見八犬傳 第八輯 卷二

13
3415
411



寫願をせしむる夜の夢の良人の宛家の這越路を魚沼の郡のあらんと正し現
心勇て舊里と潜る辛くも獨這地もあらぬ由縁の人のあらぬ亦定め宿
計は這里の喉に初大人とてける面鏡年庚声音まで那籠山と一對の不思
議の宵をせり別人のふりもけり時由影と現る敷果さなりふ思ふ飲
ぬ大人の大力投伏せり没怪の幸ひ細められ折れ又心屬してはくされが宜しその人
老那籠山あり小髻の内一寸許の舊瘡あり又這大人ありその瘡を性起り折れ其
首を念に入れり疎忽の幸せり又這短刀の良人の紀念妻の則大村氏あり名
を窓井と喚れり人不知ぬ宿望も俺身の素生もうち諦報りまら疑ひも這
縛の素もあま鮮るるれを御縁不仇討の後見とて共侶の宛家と索
絲のつらあま慈もあま哀の聲を口不信き橋鬼の巧いも武

藏野のあつたる過水の水船もく假涙虚泣も伏沈む次園太をもち多有り
理と氣色も只顧嘆息もり小文五呵々と冷笑いで翁よ那奴が巧言虚談
感で実更と聴ひて他倘實烈女也良人の為不雙言敵と敷さんと欲きのぬら
俺の刃を捉止られて本意を遂げざるも忽地胆落して怖るるらんを投伏せ
し時及び必死と極めり似て賊心言語頭れて細められも羞るるも陳べる
よ此巧も只その命を惜むるも彼紫の朱を奪ひ砥砒の玉を混ぶるとありと
俺の一切あるがごとく次園太忽地外股うち鳴りて賢察誠のその
あり這奴飽きで捷懲さるるも実を吐く術實かたは咳にてぬら捷と立對
へ船虫よとうち泣く徳もいを疑ふ強顔人の恨めやを嗟詫し疾視
ての檻の獸とるり一身の今ゆくまを折る次園太が角力の弟子の泥海士丈二
百堀鯉三と喚做たる両個の杜伎這里の夢の既ぬ船虫の生拘れる縁由と奴

婢們が噂を知らず規んをたて次房のち方繞次園太が船虫を撻んてつて闕窺て
や喃大哥と喚きて篋戸の陰より遠く共侶の立出で次園太のち方對ひて大哥這
奴が大胆なる刀劍三味せよと又その陳る趣を搦鬼るといふやうゆその大略を
記す。現艦に在る言ひの責問も勿論なれども這首を竹と中ぬる亦復酷く
叫びて市を四鄰を駭かす任するの例もある。庚申堂へてある。神慮儘の
といへ次園太領して宣定ふその受まへて然り那里おとぬる三夜燈樓の梁の吊り
毎小鞭撻る。かゝる首伏せぬ。準備せよといふやうゆと小文五言書時と推林
慮儘といふやうの御向もせよとまゝその里人の私刑内てその刻薄の過つて後難
争何れ願ふの領主訴へ官府沙汰の事ある。とある。次園太のち方地方の風儀と知り
ねは恣宣の理りるれども然り不便の言ひ。當所の前内管領長尾判官景春封
内史主の近曾上も白井の城在在又當國の春日山長尾家の城ありといふ。路

遠けれ訴訟人們の往還日數も費すの事。主在る。謙ぬ不動も先か非理の裁許
あり。是を不便の言ひ。又這里よりと程遠くぬ三嶋郡片貝の長尾家の別館あり。其
首の領主の乳母君服の大刀自と喚れぬ。年来住せぬ。みづから政事も亦是女
後の臆ぬ。見し肩の沙汰も勘ぐる。若談術説く。言定その不便の言ひ。錢
さ。費すまふ。功有る。領主の廳へまゐると。神慮儘の優と。ある。此地
方の私刑も昔よりとある。領主のち方免許と稟しとある。とある。後
難ある。下。任。ゆ。とある。却社校の船虫と牽立と共侶
張燈引提。遠く。里盡ぬ。庚申の荒廢堂投て出せぬ。愆而の夜交中の比。次
園太一箇から来て小文五言報る。那賊婦奴の形ど。庚申堂へ牽りて。懸
樓の梁の吊りて土夫二射三門の竹を執り鞭撻と。幾番と。責問ひ。小文五言
心太は癖者なれ。撻る。毎小叫びの。招道なれども。明後も三夜の同那首

の亦これやと云ふべし然れどもあれ往歳俺身石濱の城内不在り時馬加日記が邪計を
毒類せられけり折の身より年来所藏の靈玉を口合する玉液の奇特より
腹痛痒の不思議不恙より亦神佛の具助るん憶さるる疎るる今も亦靈玉の
奇特と祈る醫む暗の雲も杖霽もうち拂れ天且と膽を心驗わん言守思と遠く
枕横遣の身と起と夜も日も肌膚を放き下ける身護裏の匂解被れ玉と取出つ
祈念と幾番と眼を指れ撫るましく銷然と眼内の邪熱退冷て心地清爽より
けりもて且試み枕邊遠く措たる行燈と徐と引きて戸蓋と掲てうち對の音厭るわだ
るる憶き完全と獨笑して是則靈玉の妙心奇特小疑ひる任まき靈驗灼然多神
室と身付付る三十餘日禱も其他所小某と求めん馳ひる子とち忘れ人の抱る楯
見とる羨む小似さけかきも疎る俺も怠慢と許さる念と念と亦復眼包と指し
物とると初めは枕小被る微塵も夜視も鮮明なればいふ歡びまじく勇て翌日

風ゆ那荒廢堂へて假設女と云ふ折の小船虫秋船虫の秋檢定て疑ひ
其首小水解其推量より只管の任と身の人の裁き行多る鳴呼念と胸小
の思心のいそれとも首の夜系々今宵の尚生憎の明中ぬ丑三の鐘响く此靈玉時睡眠小
就けり不題諸表大川莊小義任の曩小大山道節と兵侶申斐州小旅宿と石
木の御の片追送る指月院小宿投り夜料も大法師と登崎土郎照文小面會
て曩小行徳とありて大江親兵衛のうまをの哀歡とももく權且逗留
たりと又道節と商量と送代小東地諸州をうち巡るる大塚大飼大田并小生
死存亡の知まをと親兵衛のうまも索究んそ大照文も任々ととて説示
あま莊小去歳の如月獨指月院と立小武藏不到り下総と赴て行徳の里小大田
父子のりといひ小文吾の故郷と還らるる故小文五兵衛の住も孰ゆる家と佳と市川
は妙真と兵侶小安房の親族許赴りける次の年の春あわけ世とまらるる



八世八郎

八

文澤堂藏



八世八郎

文澤堂藏

名の庚申堂未惣へとも離合の時あり有為轉世の世去住の苦あり是より信濃赴
 如千の州を巡りて吉左右ありて大山生と替るべし其思ふも去歳の春より
 胆向心むと耐難て恨然として照る月と露時眺る折もあれ這荒廢堂の樓
 上人の呻吟く声せしむ其介駭然且訝と吐裏しやま荒堂舎夜を雨て人處
 たるを怪けれ若是家る山賊然まむ妖怪山鬼の俺が剛臆を銚えを猛可声と
 なるるん要をあれと尋思と徐裡面杖を杖を朽て歩台間遠るる階子不推考
 して樓上を降りてそれ月光の下屋より下り入ると残る隈を明りける怪女一個の女
 人の年齢四十許面貌醜くぬ取の敗糸細られて梁の吊られてありけり思ふも似ぬ
 るる莊介騷々氣色もむらち對ひて熟視てやれ汝何物ぞ人あむを變化るる那元
 人の小説小見れとぞえ亦紅孩兒の類をその穴躬肥の姿を示して慢不俺を戲す似而

非魔鬼行かそあつめ鳥許るを冷天へ女人いとうち泣く然る宜い之神と之賤
 立女妖怪變化のあつて這里よりと程遠くぬ小千谷の御客店小月屬仕下りの小はら
 冒裏小良人の身まらうる貧賤兄不富居の幼弟小意をまらんより人小仕今口の入身の
 皮さ小掙んと尋思とて兄の中告て那客店へまらうる今茲三月初旬より小主を人の
 早晩小薄情や賤妾の春想しく折々夜跋て口説れ此も倚せ去辱めて逐返す怨
 衣と被せて件の粒銀を竊とらうとて理由非も分ぞ捷つ敵はつひ鮮くよとひの解せ
 ぬ残忍邪怪主の威光と耀と身動さぬ縛縛繩僮僕非車小も多傳とてけ小黄鼠の
 比よの志這荒廢御堂小幸のてまらうる人小えられ樓上の窓を吊りてこらふたの
 隨小鞭撻て翌の夜も又明後の夜も咎と當てるは死をせし甘蓋笠負巻小と千隈の
 河へ推淪めんとて出て死す半時むら前る死はれ賤妾の冤屈の罪の屠屠所の羊と

多ふたり方繞九死一一生を過ぐると之の幸ひと旅や刀袷とをさせたまふ方
 さぬ小遇まりし奈落如く。弥陀の御光を拜む似たり。尚ほ小詭りあるべし。名
 たは弥彦の神の御四訓を稟まつらん。願ひを疑ひも。這細も解卸し。兄の宿所へ
 送らせぬ。その再生の御恩を。のり。噫。堪へず。苦しや。と身も戦し。血走。眼も禁難。紅涙樹
 間の雨と降。沃。潤。花。と憂かり。誠。一。口。説。けり。莊。小。これ。を。う。ち。て。羊。来。犬。田
 小。文。吾。小。仇。も。賊。婦。船。虫。と。神。多。ぬ。身。の。知。る。り。ま。け。れ。ぬ。も。嗟。嘆。と。ぞ。く。が。て。は。凍
 人の不仁。依の薄命。憐れ。家兄の宿所。何処なる。その姓名。何と。いへ。と。回。へ。船。虫。涙。を
 禁。め。兄。の。宿。所。の。這。地。方。より。半。里。さ。ら。も。ゆ。る。ゆ。る。片。山。里。多。獨。戸。少。名。を。酒。顛。二。と。喚。れ
 傍。小。疎。に。孤。屋。坐。い。も。貪。く。け。れ。も。使。氣。あ。れ。乾。見。ま。ら。賤。き。女。危。を。釋。助。け。宿
 所。へ。送。り。ぬ。ら。さ。さ。ぬ。軟。び。ゆ。て。ん。只。か。ん。慈。悲。を。願。ひ。の。こ。い。は。莊。小。領。領。て。そ。の。亦。自。然。の。道
 理。之。先。解。卸。と。ゆ。ま。せん。ぞ。と。心。て。軀。之。腰。刀。小。附。さ。小。刀。子。と。抜。合。を。て。左。小。女。と。船。虫。を

抱。抗。の。梁。小。截。る。素。を。研。棄。す。杖。卸。し。雨。多。と。膝。け。その。重。索。と。解。れ。る。船。虫。の。ま。と
 捺。の。足。と。捺。り。乱。れ。る。髪。と。搔。よ。せ。推。続。ね。て。跪。坐。莊。小。伏。拜。又。伏。あ。ま。て。思。ひ。け
 る。死。ん。慈。善。何。の。世。の。ら。忘。る。死。ま。足。さ。皮。肉。疼。こ。さ。難。義。の。ゆ。れ。も。駝。れ。ま。ら。ん。の
 憚。り。あり。徐。小。あ。る。退。り。え。い。を。送。り。せ。ぬ。ひ。き。多。海。の。う。の。御。恩。小。と。憑。心。む。莊。小。推
 辞。難。て。い。ら。趣。餘。美。も。平。宿。投。後。れ。折。れ。路。の。便。宜。左。も。右。も。宿。所。へ。送。届。け。ぬ。さ
 せん。徐。小。階。子。と。踏。へ。降。よ。と。の。小。船。虫。又。伏。拜。て。大。か。さ。ら。ぬ。御。洪。恩。ゆ。て。い。兄。も。感。心。と
 今。宵。の。を。宿。と。ま。え。べ。ん。允。さ。せ。ぬ。と。も。と。膝。小。掛。て。あ。う。な。く。身。と。起。ま。せ。莊。小。い。る。何。勅。り。て
 杖。け。俱。も。樓。上。の。降。り。と。外。面。小。時。壞。れ。壁。の。鏝。卷。竹。の。大。中。を。推。折。り。船
 虫。取。り。ぬ。船。虫。の。受。戴。て。杖。と。突。て。逃。る。も。莊。小。共。侶。小。夜。の。山。路。と。執。心。る。如。く。ゆ。く
 正。約。半。里。許。童。子。竹。隔。子。酒。顛。二。隱。宅。へ。ま。く。來。ま。け。り。這。里。の。山。院。の。荒。迹。を。見。ぬ。處
 処。は。礎。あり。只。松。柏。の。老。る。が。彼。此。小。級。繁。立。ま。見。長。限。の。外。小。家。も。然。も。酒。顛。二

却説莊介義任の獨枕不就ひとりまじりれども又身みと起おこしと要時まじりも睡ねらば手てと又頭あたまと低ひく吐は裏うらの必かならずきこの主人あにの面魂おもたま一癖ひとくせあべくええうの乾兒こぶえと唱なる一函ひとふみ名なも又獵戶あやうの摸も様さまのわの短席みせ上うへあり一盃ひとふみ碗わんの二箇ふたつかんと具足ぐそくせし碟さ子この唐山たんざん舶來はくらいの宣徳せんとく製せいの如ごとく折敷せしきの剥むる會津あいつ盆ぼん東西あづま皆みな輕重けいちゆう巧拙かうてつのあだも疑うたがは家いへの寺院いんげんの庫くら裡うちの似にく在俗ざいぞくの住すまひあは柱斜はしらの壁壞かべれて檐えんより夜半よるの月つきの漏もれも酒肉しうじくの奢あれる為ため体てい那人な柄への相応あうおう今いま亦また臥房ふしど入りてる蚊帳かむかの則すなはち萌葱もうちゆうの紗さの裙縁くろん紅べに絹きぬを用もちひる亦是また微賤みづかの東西あづま似にく蒲團ふとんも四布よのふの絹きぬも臥屋ふしや極まめて鹿物かものの枕まくら古材ふるまの所ところ株かぶへあれらもと推量おしりやうる那酒な顛てん二山ふたやま賊ぞく也なり西個さいごの乾兒こぶえの支黨しとうをん向むか主人しゅじんが俺おれと相あく武家ぶけの主用しゆようの路みちと氣いき脚力あしぢからを哉やと向むかひ時ときいさ心のつらりし今いま又また必かならずく俺おれが懐なつふ要金えんがねある故ゆゑと竊引ひそかにらん此こゝも亦また疑うたがは女弟めいと唱なるもの必かならず是こゝ賊婦ぞくめも人の為ために生拘なまれ那荒廢堂あらいだうの樓上うゑの敷しきをたもたれん俺おれが思おもひ足たりらざらん

他たの巧言こうげんと真事まことと听きる慈善じぜんの仇あだも必かならず死し機萌きもの越こえ頭あたまれる窓まどの所ところ當あたる由よし別べつにるる今いま宵よの旅舎りやの用心しんの優やさくあつと尋思まをる四下よをる縁えん頼たの戸かどの足あしの裏うら半分はんぶんの圍いりまわられ子こ二刻ふたご比ひの月の光障つき子こと照ある庭面ていめんの高たかく歌女うたの声こゑは絆はり折せ進しん退たい好この劣せつの便べんがたと思おもひ又また後方ごほうをる短たん鎗しやう竹槍たけやり桿かん棒ぼうをどのまき美塵みぢんを掛かくわの又またの邊へ不ふ竿さんに串くわたる烈衣織れつゐの草鞋くさの締しと融とせざいさもわの折せる奥おく人ひと許ゆるまら譚たんが声こゑとられ莊介しやうけ耳みみと側わきに俺おれを不ふ徳とくであらん他た們らも亦また由よし別べつに闕あ窺うかがるまき内うちの熟じゆく睡すいる如ごとく如ごとく臥ふく喘あんとそと休やすみぬび枕まくら小誌せうしの介け程ほどの酒しゆ顛てん二席ふたせきの易やす勿な奥おく不到たうたうに御ご不ふ願げんれり支黨しとうと圓居えん居いる船中ふねの酒しゆと飲のみ勤しんりて那荒廢堂あらいだうの細こめられる縁えん故ゆゑを尋たずねる船中ふねの聲こゑと潜ひそかく身みを報うり面伏おもたれぬ奴家やつが乃な者もの日ひ毎まい々々々々小絆こ絆はり假托かりた外ほか半はんの雙ふた言ごと敷しきもんと思おもひる故ゆゑの箇この様さま々々々々且かつ裏うらの近ちか郷ごう干かん村むらの閉し牛うしと現あらる折せ大甲おほ小文こぶん五ごと闕あ窺うかがる絆はの趣おもと初はと小文こぶん五ごの比ひより小千こせん谷やの客店きやくの石龜いし屋や次つぎ圖ず太た許ゆる逗留と

其夫のまた随小酒顛二がま下小まて。春の比より這里も。この日塚の山は所用の
 正。今朝未明よりする原次借のあわれの倒夜行も便利とて深夜かかるとま。ま
 酒顛二初ハ單身より。小船虫と妻あせより。又當堂も取衣唄は徳大勢もなや
 と。間話休題酒顛二の折も。方鏡媪内か。さ。さ。遠く。嶺近つ。は。や。媪内
 舞急る。觀望意中。と。蓋。不。違。の。ま。俺。今。より。火。家。と。俱。小。千。谷。夜。人。赴。く。亦
 俺。を。を。を。と。現。小。仇。の。あ。る。飲。料。を。か。り。和。郎。の。素。より。才。覚。あ。り。心。の。悍。然。の。れ。今。宵。の
 留守と。未。なる。事。情。を。知。ま。く。也。後。小。船。虫。は。少。絲。り。と。い。く。種子。嶋。の。小。鳥。銃。を。懐。中。に
 中。に。這。炮。銃。の。北。国。に。今。宵。稀。る。東。西。を。れ。俺。年。來。秘。藏。し。て。利。を。得。る。と。勘。ふ。ま
 今。宵。の。れ。を。送。り。置。て。權。且。和。郎。の。預。て。仇。入。來。ぬ。と。る。ま。火。蓋。を。披。て。數。留。上。と。舞
 せ。り。説。示。と。その。鳥。銃。を。遞。与。ま。媪。内。の。も。と。を。ぬ。ぬ。い。る。随。小。志。と。り。宜。小
 趣。り。の。め。り。會。す。ま。れ。の。幾。人。の。國。へ。足。の。棋。を。を。ら。る。安。か。不。れ。よ。と。い。酒。顛。二。領

又。船。虫。亦。佳。々。と。留。守。の。用。心。を。の。め。と。示。し。と。ら。進。め。同。惡。と。先。小。立。し。と。出。て。也。を。船
 虫。の。媪。内。と。共。に。祝。し。と。目。送。り。け。り。却。説。大。川。社。公。の。是。より。先。小。臥。房。を。與。る。酒。顛。二。們
 密。談。を。听。く。と。約。半。晌。許。間。送。隔。れ。も。護。身。囊。を。收。め。那。靈。玉。の。奇。特。を。り。け。ん
 船。虫。們。の。い。ま。ま。の。懐。小。御。音。く。如。く。聲。言。五。十。瀬。の。御。音。石。の。人。語。を。程。ま。小。異。る。と。て
 言。詳。ふ。は。え。や。或。の。驚。び。或。の。歡。び。獨。竊。も。は。さ。る。俺。が。推。量。不。違。な。ま。酒。顛。二。は。是
 賊。の。頭。梁。又。俺。が。今。宵。送。届。け。船。虫。の。の。妖。狐。奴。の。の。女。房。で。あ。り。け。ん。欺。れ。ぬ。鈍
 せ。り。ゆ。然。る。中。も。小。文。吾。の。當。日。故。郷。に。還。る。と。這。地。の。旅。宿。を。し。る。と。必。その。故。郷。に。五
 稔。以。來。未。だ。也。の。遇。さ。る。三。大。士。の。隨。一。人。の。悌。順。の。這。里。より。七。程。遠。く。ぬ。小。千。谷。の。御
 石。龜。屋。次。圖。太。と。客。店。に。久。し。返。首。考。る。及。風。眼。小。より。て。る。ま。の。克。む。と。い。ふ。や
 ま。も。賊。婦。の。口。の。波。を。えて。今。宵。初。て。知。る。と。ぬ。る。の。奇。妙。多。う。な。什。麼。の。く。せ。ん。衆
 賊。們。今。より。那。里。を。襲。撃。す。眼。疾。不。便。の。大。田。の。窮。厄。十。小。七。九。分。九。整。屋。に。免。る。と。か。こ

の下。然りとて俺身は。目今那首潜寄。酒顛二と船虫。揮舞ふ。做さる。六錢
 る。鳥合の小嘍囉。咸立地。逃亡。犬田。危。釋。べ。れ。も。不知。案。内。る。賊。果。の。王。客。は
 勢。以。既。異。之。前後。許。多。の。敵。受。て。利。を。得。ん。と。亦。か。ら。る。その。危。は。臨。ん。と。所。詮
 竊。不。退。は。他。們。が。出。て。中。折。紛。れ。共。小。千。谷。小。到。ら。回。せ。と。石。龜。の。宿。所。を。知。る。と
 いと。易。く。任。て。那。里。の。門。頭。を。名。告。て。酒。顛。二。敷。を。捕。ら。主人。次。園。太。四。隣。の。市。人。志
 有。壯。依。走。出。相。援。け。て。衆。賊。と。俱。敷。り。せ。ん。恁。做。さ。と。小。文。五。五。の。大。厄。を。釋。く。の。は
 ら。賊。の。根。と。樹。葉。を。枯。く。と。地方。の。害。を。除。く。一。叶。介。と。肚。裏。を。分。別。既。決。り。け。ま。い
 潜。寄。不。身。を。起。と。柱。の。根。を。草。鞋。を。取。卸。穿。縮。て。又。兼。塵。を。九。尺。の。短。鎗。の。の。宜
 程。を。擇。取。て。小。篠。の。両。口。巾。由。現。騷。が。て。早。に。劍。刀。身。柱。衣。と。縁。頼。より。出。て。中。二。及。ま。り
 程。上。の。竹。藪。を。躑。で。衆。賊。這。里。候。々。と。介。程。酒。顛。二。條。短。衣。手。甲。脚。巾。鍔。打。る
 顛。卷。の。脩。刀。を。跨。て。右。の。短。鎗。を。扱。え。器械。合。々。と。十四。五。石。の。支。黨。と。後。後。後。先

中。立。せ。火。急。の。隊。配。り。大。家。急。げ。と。逸。足。出。と。走。る。跡。よ。る。柱。介。も。鎗。引。提。げ。隊。を。紛。れ。
 共。侶。を。走。り。と。折。々。五。月。の。天。を。驟。雲。展。月。を。隱。と。朦。朧。と。影。隨。酒。顛。二。自。餘。の。賊。も
 音。不。莊。介。と。認。む。と。只。是。火。家。の。一。人。と。疑。へ。此。も。疑。へ。さ。る。の。は。も。ろ。け。の。徒。而。童。子。藩。子
 酒。顛。二。石。龜。屋。次。園。太。の。門。頭。を。推。寄。来。つ。門。の。戸。烈。く。敲。か。と。主人。次。園。太。快。出。よ
 這。里。不。宿。せ。他。御。の。旅。人。大。甲。小。文。五。五。然。あ。り。復。讎。の。為。來。る。の。命。惜。く。小。文。五。五
 索。と。被。て。推。寄。異。議。及。び。園。宅。の。奴。們。一。人。も。漏。さ。祈。盡。え。這。里。用。志。と。諸。声。立。
 勢。以。猛。く。呼。つ。ち。間。近。く。臥。る。奴。婢。輩。の。駭。覺。つ。吐。嗟。と。り。怕。れ。と。答。さ。る。登。時。主人
 次。園。太。も。覺。て。奥。より。走。り。來。て。且。石。節。の。間。より。と。來。つ。る。の。を。視。ふ。面。魂。皆。猛。惡。を。辭。者
 通。て。十。七。名。短。鎗。竹。槍。脩。刀。と。も。み。合。り。異。形。の。打。扮。是。緑。林。錦。楓。の。儀。多。ら。ん。と
 見。て。け。れ。原。來。那。假。替。女。の。同。類。多。の。事。知。り。龍。襲。来。つ。る。疑。ひ。を。俺。も。わ。れ。犬。田。大。人。の
 病。眼。に。敵。と。爭。何。せん。背。門。より。落。さ。せ。と。尋。思。と。つ。音。も。せ。六。編。不。踵。と。旋。と。犬。田。が

賊隊を紛れて
殺戮を
莊介



卷二



莊介

あどあむ 臥房に赴けり。然れば四隣の里人の共々驚き覺るもあらず。賊徒の刃勢を害怕れて焦る折
ひとち 一人とて援あるものありけり。既めて外面の酒顛二頻り焦燥して焦る。吸ぶる心もせ
ぬ。逃亡る欲寝惚一破戸を打破て稠入る。ゆるゆると緩一と罵る。声共侶は一個の支黨准
備の堀植を振抗て門の戸を粉砕打推して走入るとする程。程の程にその隊より大川庄介
頭れ出て大喝一声閃光の刃尖の地上の電光瞬間に件の賊の腹下ぎと突立て。裡面不知
者声高申す。大田も主人も驚く。大川庄介あり。面亭の賊は俺威殺せん。背門は用心せよ
かと西三番喚りて駭噪く小嘯囉と又西三名突仆去。勢は死猛虎を駭て群羊を屠る不
似。向ふに前を武勇の栗姓克くもあられ。賊徒は怕れて辟易考。おれくとむる小敷
るものぞ。まろける。只ひなきる光景。酒顛二も亦驚き。怒る声も立ち。原来自夜の
逆旅武人奴の同謀者。あつて。不意に敷を。故を。聊勝小無ら。原も。言者
知れる。孤客の鎗頭。いさむ。は。あ。快推包とて敷を留よ。と罵。焚され。支黨。又庄介と

敷を。半分の裡面。稠入。小文吾の次。國太。俱に。刃を。振り。て。先。進。近。賊。を。砍
靡。け。薙。休。せ。逃。び。透。き。趕。立。々。門。頭。を。出。て。戦。す。る。其。間。庄。介。の。酒。顛。二。と。鎗。を。闘
ま。て。一。上。一。下。と。術。を。盡。す。大。士。の。武。勇。小。草。賊。の。當。り。も。あ。ら。れ。酒。顛。二。竟。小。腕。乱。れ。怯。む。
ゆ。り。と。庄。介。の。鎗。を。膝。反。揚。て。オ。ツ。と。嘯。て。目。光。を。刃。尖。の。深。酒。顛。二。吭。と。刺。串。れ。仰。反
仆。せ。死。で。け。り。残。る。賊。徒。は。立。足。も。な。く。逃。る。小。文。吾。次。國。太。們。又。庄。介。も。共。侶。は。這。首。小。趕。詰。那
と。首。を。敷。も。留。最。も。烈。く。攻。め。け。り。賊。の。屍。の。骨。と。糸。と。大。々。と。冷。敷。め。れる。中。辛。く。と
の。脱。れ。て。廢。毀。院。の。隱。宅。走。か。り。小。嘯。囉。ハ。一。兩。名。の。過。り。け。り。登。時。大。田。小。文。吾。の。庄。介。の。声。を
か。け。絶。て。久。く。大。川。生。什。麼。の。ふ。と。俺。の。危。難。を。知。り。援。め。け。け。只。是。不。勝。の。歎。け。り。と
い。へ。又。庄。介。の。そ。く。走。り。近。つ。て。俺。が。來。歴。一。朝。の。説。書。を。く。も。小。文。吾。和。殿。の。項。日。風。眼。を。あ。ら
ま。自由。に。ゆ。れ。無。箆。電。で。在。る。と。夢。の。中。も。似。い。と。め。で。て。と。ら。れ。て。小。文。吾。の。れ。れ。と。小。生。け。け。は
でも。酷。く。目。と。病。煩。ひ。て。茶。餌。の。效。も。な。し。と。夢。を。な。く。し。つ。つ。と。甲。夜。も。秘。藏。の。玉。を。取。出。す。

念ど病眼と指ると半响も目翳退た一昔も七明も正鳥夜も燈燭とる所が如し
 其の主人も報る違のあふりし夜盗大勢推鬼来ると雪を尻起して主人と俱の草
 賊們と聊討捕ひては各の間は次園太もあて立取合て却莊介も名告す共は飲ひ成
 演で又かき定由由の大敵也衆賊の夜は準備のあま加梅か客人へを病て皆
 目とえぬのいふもせんを必死の覚期ひひい豈思ひ大田の大人の眼病夜中の症
 可く進退自由のさうふに友達の折もこの地は旅宿あひてさくも賊と滅ひい裕と云
 恰といひ飲ひ辟言ふのいふを莊介の口誦ひ姑措てる得緊要の一談の
 其の料をも甲夜も佳々の山路も荒廢堂も憩ひ折那船虫さ公賊婦の梁の吊
 られしと申す訝あふり故と語ねし那奴巧の欺は箇様々といふもその細を解
 却と乞ふ隨の他が宿所へ送遣し宿所は故の庇屋也廢院の跡も似り且船虫が
 兄と説りし賊の頭梁も酒顛と喚做すも某初にれを知り馳て那里止宿し
 女打粉て怨も復えとせり漏まし聴いし懐る靈玉の加護るんか佳而賊首
 酒顛の這首へ夜敷も推寄り妻船虫新舊兩度の怨と一時復えんも謀るも既
 急登時某もさう不知案内の這所也又賊と敷も欲せんも他們と俱し小千谷
 到て石龜屋の門頭也猛可起り拉ぎ賊首と殺し易かべと尋思す箇様々も
 計と俱ふるも酒顛二も又支黨も討捕し今も小賊婦船虫の媪内と公
 一個の賊と俱し留守と那首も方純酒顛二も敷れりも必逃去るべし那
 奴の前後兩度まで草賊と夫婦も毒悪竊盜するに如く大田生を害せんと志つも
 前後兩度もわづれ佳れ天も人も借る罪人多と走らる蛇と殺し七頭と推し後の
 患と送る似る這里も賊巢へ才半里許り誘ふ天も明るも船虫を屠る

那當黒の密談と具不洩すられれ疑心も氷解と那船虫の當初武藏を阿佐
 谷の奸賊並四郎が妻をりし并子件の並四郎の大田生も敷れり這回又船虫を假敷
 女打粉て怨も復えとせり漏まし聴いし懐る靈玉の加護るんか佳而賊首
 酒顛の這首へ夜敷も推寄り妻船虫新舊兩度の怨と一時復えんも謀るも既
 急登時某もさう不知案内の這所也又賊と敷も欲せんも他們と俱し小千谷
 到て石龜屋の門頭也猛可起り拉ぎ賊首と殺し易かべと尋思す箇様々も
 計と俱ふるも酒顛二も又支黨も討捕し今も小賊婦船虫の媪内と公
 一個の賊と俱し留守と那首も方純酒顛二も敷れりも必逃去るべし那
 奴の前後兩度まで草賊と夫婦も毒悪竊盜するに如く大田生を害せんと志つも
 前後兩度もわづれ佳れ天も人も借る罪人多と走らる蛇と殺し七頭と推し後の
 患と送る似る這里も賊巢へ才半里許り誘ふ天も明るも船虫を屠る

べ。や快々といふと。その崖略と報へ六次園太の事。且敷馬は且感下と頼の耳を傾けり。就中小文吾の所。毎毎感嘆と。通徹妙大川生敵と知り。己と知り。進退の度。當らぬ。是兵法の貴む所計略感する。あまの如く。船虫の俺身の仇。このさ。大辟不赦の罪人。抵言て那奴を殺去。只御道と憑む。との辨は。又那土丈二郷云師匠。近き。石亀屋強盗入り。同志の社伎十名。なり。敵起し。駈催して。大棒と突立。天の明。此来。次園太の小文吾と。俱に土丈二門を。縛の趣。説示。和郎の過半。小在。比屋の人々。共侶。よ。御長。報指揮。儘く。衆賊の戸。散る。か。俺の這方。さ。連と賊の隠宅。趕敷。その根。と。人。と。の。交。を。あ。る。と。論。と。裡。面。走。り。逃。れ。女。房。鳴。呼。善。并。奴。婢。們。を。喚。出。と。又。示。上。の。如。く。配。送。も。り。小。文。吾。の。社。伎。先。立。と。賊。果。へ。を。か。し。次。園。太。の。郷。と。社。伎。五。六。名。と。あ。り。金。後。れ。と。二。天。去。跡。を。跟。て。走。り。有。徳。一。程。

廢毀。酒。顛。隱。宅。の。洞。六。穴。と。喚。做。る。兩。個。の。小。嘍。囉。此。か。の。來。て。酒。顛。二。よ。の。他。の。もの。大。川。大。田。勇。士。と。數。果。され。縛。の。趣。箇。様。と。報。へ。船。虫。も。媪。内。も。只。眉。火。の。焦。る。と。駭。噪。死。て。立。て。居。て。も。計。の。所。所。と。知。れ。走。る。不。如。と。尋。思。て。身。装。へ。臂。近。る。金。錢。衣。裳。と。腰。に。着。背。に。馳。て。共。侶。小。立。去。と。は。折。船。虫。の。洞。六。と。穴。へ。ち。對。ひ。俺。丈。夫。の。運。竭。て。火。家。の。人。々。と。共。侶。果。敢。て。擊。と。め。ひ。と。數。け。と。も。今。の。益。多。顧。小。大。田。と。大。川。奴。が。里。人。を。駈。催。と。み。ぎ。と。あ。推。と。來。る。然。然。と。石。龜。屋。次。園。太。行。貝。殿。別。館。へ。許。て。馳。て。捕。多。向。り。居。居。細。と。受。ん。と。媪。内。を。投。て。投。ま。る。と。落。て。ゆ。ん。と。案。か。汝。達。も。宜。し。東。西。と。馳。は。死。限。り。擔。造。り。て。家。火。を。放。煙。紛。れ。何。処。へ。も。影。と。躲。ね。迹。を。憑。む。こ。ら。捨。て。立。ふ。く。あ。ら。慌。し。東。と。投。て。出。て。後。場。不。後。媪。内。天。女。の。祇。裏。と。馳。は。種。子。嶋。の。鳥。銃。と。推。乃。て。趕。の。あ。ら。數。も。留。ん。と。眼。と。配。る。不。敵。の。退。際。今。より。後。の。胸。鼻。

用もあつた合ぬ秋の枝の算盤絞の類草二轉變早急の一時退散五二倍死引之
 残る二人連樂去て苦の世界九死加四苦六瀾六と穴八算井小告別明く天を不樂
 けの樹の下層の路もぬ路と討めていそ死けり姑くして彼此の茂林を離る鳥の声山
 鼻遠くあつ引東の暗れ微雨の朝日向小社介小文吾と共侶小賊巢巢近々
 正三町あつた小あり一時小文吾とええうて那媪内さる奴の酒顛云預ける鳥銃を持
 るらち入るとな心と管筒面小立あひとと小文吾あつたていそ去向忽然と自焼の
 煙立升りて尾刺々々々と音する小を二天吉れを信えて原來を船虫們が自焼と逃去
 るふそのあち逃とて何処へ脱せんかと飛が似く小猛火の邊へ喘々て走着たり登時瀾六
 と穴八を取るに東西と皆擔造りて拾半の隱宅火と放ち却退して庭小措る件の
 重荷を擔ひ抗んとせ程小初の折れ擔索も断て東西皆滾出するふ火粉忽地燃
 徒と焼失歎くええと二賊吐嗟と狼狽謀く引きえとを折二天士走の近つた那為

体小此も猶豫甘草賊等と喚被る声小驚瀾六穴八外へ去る小後分六既小猛火
 渡られて二歩も退くさるる前二天士立塞り脱るもあつた此彼分一跪けり
 許さるあつた陪話ると二天士馳て蹴倒し解る擔索と檢合はる小數珠數系小
 細の且風扇小牽りと退け船虫と媪内們が往方と敗系一責向小二賊答て船虫媪
 内もねと急早く東の方へ落さる小可們的又箇様々々と跡小送り一緯の趣あつた隨小
 首伏せ二天士れさつたてその朽惜さるる他賊小左まれ右のあれ那船虫を走さるへ能
 殺と胆と採る憾の何と異る遠くのあつた趕鬼んと俱に敷圍死罵折く次
 困太の脚三と自餘の社校們を従へて中々走者一久二天士船虫們の逃るよと報知
 きて部とあつ趕鬼けり中々小社介の弟と這果さる一個の社校小索と執七又瀾六と
 穴八を責て酒顛二船虫們が來歴素生と向か二賊の隠まると冷然傳つて趣を送
 るく招道者さるる日とあつた船虫が酒顛三と相計と磯九郎と殺せりも又船虫が信

濃路より流落す酒頭三と夫婦より一の巾着内他御老主小傷け盤纏三奪せ
 亡命するものありも總て具頭頭れけ介程小文吾次團太卿三各々里の社校二両名後へ
 下る二方小立別れ船虫門の趕まけり樵路能徑岐道より山野の草木の隈の三をれ何地
 のたけん趕もゆ着るも早飯もたうべぬ大家餓てかろ本けり當下社介り又酒六門が招道
 ぬく御曾酒頭二船虫が計と磯九郎と殺せり并は温内を來歴まで初て知れ縁由小文
 吾次團太們小報一大家穿々駭嘆とての送恨不堪さけり就中次團太今船虫を獲せと
 いふ磯九郎の仇發覺て入る酒頭二社介を殺せり是切てめりんと又改めて社介
 その飲びと演じり徳而あるを成れ小文吾社介次團太の生拘の二賊酒六元と卿三們小
 牽一午の貝吹く比及小千谷の宿所へ還りけり抑件の酒六と元八を年尚二十三あるべし酒
 六も身長高く面色白くと小文吾は似たり所あり又元八も色薄黒くて身長の高るれども
 筋骨の逞しはとらる所何となく社介に似たりけり夫燕石の玉に似たり牛の子に羊に似たり

は物と相似てその曾異へ知陽虎の孔子に似たり又山猿の顔延之と何尚之に似たりも只
 是外面のそふと内心何と同らんが故に但貌とて人と取れり聖といへも必謬那酒六
 と元八の大田大川より似るも亦比て知るれの間話休題再説次團太も小文吾社介小相
 俱し小千谷の宿所から先二天士は饑と羞め不無并薦めりその曾侍大と酒六并に主
 丈二卿三們的社校のこの曉より這里より那首を赴ける幾名も酒と飲飯と啖し留
 守の首尾を問ひ然土丈二們的曉より四隣の人々と共侶よりと御長小報知り時と程
 まで件の始末を領主の陣屋に告訴せり有司速に到來と尸骸の実檢吉訖り賊頭
 梁童子備子酒頭三の支堂小至るも梟首志一と宣披て酒頭末と糾問せり梟賊と
 殺せり武勇の旅人天川社介大田小文吾們を歸すを宜く御沙汰あるは宣出よと見下知
 ありと安らふその事果て方鏡還り各ありと報る小次團太然りて衆人を勞り又二天士中を
 件のより徳々と褒え知りてみづから御長の宿所へ赴けり二天士かゝる束ねるより又二天士賊

隠宅老瀬六虎八と二小賊と生拘り趣之箇様とと傳述して這美も許るべしと
 馮てかさ比屋る市人許立ちて公吉を勞した軟びと演るは煩雜いへうもあつりけり
 余間小文吾の病後の浴湯剃梳して社介と俱小客房も會話の數も由る單即
 夏之趣又並四郎船虫が馬加日記常武が妬忌奸計あふり次の年は五月まで此身を石濱に
 城内は禁錮される事の顛末并大坂毛野のをも復讐言の智略勇敢を折毛野の資
 より石濱と逃去り依介の父文五兵衛と逢言の又親兵衛のをも社介も照文の
 伊豆の孤嶋を光陰と送りて幸な浪華便船に國地へ入る有馬の湯治這地の
 遊歴二十村の閑生折景たる牛と特めり小角力磯丸が醉狂狂死の身は眼病靈玉に
 妙心奇特のをも次第茶を説示其社介耳と傾之頻る小感嘆の声は絶ぜ果て
 又その身は去來荒芽山を離散の折大山道節と共侶大塚大飼の往方と常心て

四國不渡り九州不赴に京棋五畿内を巡り甲斐州不到り折石木の楳月と道
 場老大法師の名のあま登崎照文の面會するをこれと始と社介去處に
 春も不又四士と索んと獨楳月院と立出て武藏不赴に下總と徧歴し行徳に
 里入大田のへ来りり文五兵衛の安房州也身もろあはと知て常陸下野陸奥出
 羽長旅宿と稔の光陰と過せ鳥居の顛末乃者這地不來つれもる四士
 大塚大飼の遇志の甲斐の石木に來りて又道節と替らんと以り終りも暗譚の時と程
 は過かるとも生ゆつれ就ても痛すれと四郎音音が忠死義没身も單節と薄命
 存亡又親兵衛の善も有ややと以り慰難て共侶の嘆息の外もつれり姑く社
 介又小文吾小ち對して送小苦行の甲斐ありて和殿不環會一が俱る石木かあ死て
 大山は鉄せ又出る不と大塚們的と天土と索ぬべと社介小文吾領てその議定もあ然
 る光もぬる年黒田川の頭も果敢を別れ大坂毛野も亦俺們と同因因果の過せも終

料りがら。那折の緯急を。俺も一死病のや。又相似る玉も持ると。緯向の違わら
 せ。受へ今ゆ。送懐けれ。備後々まで。縁盡さる。再會と候人の。と其々々。閑談も夏れ日
 ら。けら。短と。景横目影下。晡ま。るのけり。浩処。次園大の。遠く。走り。ま。二大士。あ。ち
 對して。目今片。見。御別館。より。執事の。老臣。相。津。衛。由。元。大。入。の。使。者。と。七。萩。野。井。三。郎
 と。名。生。口。一。個。の。若。黨。雜。兵。十。名。あ。り。後。て。轎。子。二。挺。と。市。々。客。人。達。の。迎。え。光。臨。の
 御。長。より。告。知。さ。れ。て。快。く。准。備。と。ま。り。二。大。士。の。あ。ま。り。又。要。る。は。な。し。と。俺
 們。の。初。も。異。姓。の。兄。弟。と。あ。り。相。別。れ。り。往。方。を。知。る。言。兩。三。名。あ。り。れ。い。尋。あ。り。欲
 する。折。へ。何。の。求。り。所。の。領。主。の。執。事。と。對。面。せ。し。其。推。辞。の。又。一。と。の。辭。い。も。言。ら。れ。件。の
 萩。野。井。三。郎。の。御。長。小。案。内。と。て。み。つ。ら。あ。り。ま。し。れ。二。大。士。已。ま。り。出。て。萩。野。井。三。郎
 面。を。登。時。萩。野。井。三。郎。の。執。事。由。元。の。使。と。仰。せ。ま。り。口。狀。と。い。ふ。態。勤。小。演。る。の。二。大。士
 初。の。ど。辭。ひ。て。兼。引。き。り。三。郎。聽。き。推。返。と。その。受。け。な。れ。右。も。あ。れ。る。由。元。が。私。の。使

申す。看。み。を。と。り。主。長。屋。殿。の。お。母。君。服。の。大。刀。目。御。前。の。内。命。ま。て。御。食。心。の。受。と。奉。り。種
 准。備。も。い。へ。姑。く。時。宜。し。後。に。那。首。小。赴。だ。め。ん。を。公。私。の。款。び。を。今。ゆ。辭。退。と。及。ん
 せ。二。大。士。推。辭。難。と。ま。り。俺。們。の。行。装。の。三。也。礼。服。を。明。日。衣。裳。と。整。て。是。よ
 り。推。參。致。去。下。と。い。ふ。三。郎。の。あ。ま。り。由。元。豫。め。の。受。け。さ。り。あ。り。ま。し。れ。又。禮。を。齎。と
 せ。二。大。士。後。方。と。い。ふ。而。個。の。雜。兵。あ。り。て。精。好。の。袴。二。領。と。柳。箱。の。蓋。と。も。載。て。茶。一
 と。ま。り。の。二。大。士。も。薦。薦。と。在。在。小。文。吾。も。信。ま。り。懇。切。と。那。老。臣。の。招。待。と。返。は。り
 登。礼。さ。す。と。良。へ。先。の。款。び。と。述。て。聊。退。れ。俱。件。の。袴。と。受。け。刀。引。提。て。去。り。三。郎
 轎。子。二。挺。と。檐。下。に。早。寄。り。と。快。々。兼。せ。め。の。二。大。士。後。に。俺。們。の。千。里。獨。行。旅。の
 旅。も。熟。考。の。の。然。と。り。の。免。路。の。程。と。這。轎。子。の。要。り。を。告。り。と。告。り。と。告。り。と。三。郎。の。云
 云。と。薦。め。小。文。吾。在。小。轎。子。と。ち。兼。一。轎。夫。們。多。前。後。存。一。拾。起。と。早。出。せ。雜。兵。左
 右。後。に。片。見。と。扱。の。を。な。り。當。下。萩。野。井。三。郎。の。生。拘。の。小。賊。瀧。六。次。八。面。各。の。細。め。り。伏



片貝の那儀
千
二犬士捕
捉
らやま

片貝

千

小文吾



我井

